

昭和37年度予算決まる

一般会計

九億四千七百万円余

前年に比べ四割の膨張ぶり



所民人
行市集
飯田編
飯田市新聞委員会
責任者 佐々木高行
印刷所 信州印刷KK
松本市巾上町353

(一) 作年比六千三百万円増) 市債
(一億四千七百万円(同八千六百万円) 増) とあればあり、不安定な
「見積り予算」となっている事が
特徴である。これについて松井市長は災害復旧のため、行政水準を
低下させたくないと思へ、積極予算を組んだ。補助、起債は今後確
保に努力するとしている。

三十七年度一般会計予算総額は、九億四千七百六十万円で昨年度に比較して二億八千三百二十七万三千九百円ふえて未曽有の「膨張予算」となった。しかも災害復旧は被害が大きかっただけに特別会計総額十三億八千三百九十一万三千円を計上し、合計二十三億円を越える膨大な予算となつた。一般会計予算が膨張した原因は、△災害にあつた川路小学校の移転新築、今宮都市計画、松屋の農地復旧など災害関連事業が多いこと△人件費の増大(昨年比三千円増)と諸経費の増加したこと△懸案の事業を継続したことなどがあげられる。

補助金・起債

税法改正により、千四百万円の減税がなされても自然増十三%をみこんで昨年より一千四百万円増となつてある。三六災害による特別交付税が少なかつたため、過年災を付税が少なかつたため、過年災を認めてもうらぐ合計三千五百万円増額計上された。

寄附金

五千六百万円をえているが、これは川路統合中(総事業費九千六百万円)の補助、起債と飯田市と竜江村の負担金を差引ひいて計上されている。

市入歳出

〔内は、前年度比△印は減〕

歳入	歳出
税 283,751 (△23,929)	歳費 111,383 (△2,233)
地方交付税 138,000 (△35,337)	歳出 122,651 (△21,284)
市公債 31,039 (△22,038)	防木育 9,494 (△9,816)
公金 37,464 (△25,577)	防木育 68,584 (△18,209)
企産収入 32,770 (△5,466)	教 208,446 (△107,154)
公金 130,930 (△50,053)	社会 145,986 (△25,659)
企産支金 22,139 (△13,488)	施設 23,026 (△5,564)
公金 61,261 (△56,449)	保健 4,945 (△413,910)
企産支金 1,700 (△1,550)	産業 3,562 (△1,641)
公金 61,109 (△7,101)	販送 4,43,325 (△29,1,334)
企産支金 147,600 (△86,600)	公諸 2,000 (△1,831)
合 計 947,766 (283,273)	合 計 947,766 (283,273)

市出歳入

〔内は、前年度比△印は減〕

社会労働施設費

福利関係

教育委員会と農振課で

まとめた月末現在の中卒者の動向は別表のとおり。

特徴としては、高校志願者が全体の大三%を占めること。家に居て農業に従事する者

がわずか十一名で、農業に従事する者

があること。就職先は製造業が多いこと

等である。

高校進学は六三%

就職者の六二%が製造業へ

教育委員会と農振課で

まとめた月末現在の中卒者の動向は別表のとおり。

特徴としては、高校志願者が全体の大三%を

占めること。家に居て農業に従事する者

がわずか十一名で、農業に従事する者

があること。就職先は製造業が多いこと

等である。

X

農業に従事する者

があること。家に居て農業に従事する者

がわずか十一名で、農業に従事する者

があること。就職先は製造業が多いこと

等である。

農業に従事する者

があること。家に居て農業に従事する者

がわずか十一名で、農業に従事する者

があること。就職先は製造業が多いこと

等である。

X

農業に従事する者

があること。家に居て農業に従事する者

